

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市荒町児童館	
2 指定管理者	労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団	
3 指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 ・令和5年度 25,518人(前年度比 96.7%) ・令和4年度 26,401人 ・令和3年度 23,732人	
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業	
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 44,103千円 (45,736千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者会を実施。	

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。地域との交流事業においては、日頃の情報交換や「回文団扇」をはじめとする様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。 なお、職員における虐待や不適切な対応を防止する取り組みについてのマニュアル「職員における虐待等の不適切な行為に対する対応について」を作成し、職員会議やOJTを開催して職員間で周知共有、子どもの人権に十分に配慮するとともに、子ども一人ひとりの人格を尊重して支援が行われている。	19/18

三 評価総括

《指定管理者（労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団）による自己評価》
<p>顔の見える関係の地域連携を強固にし、安心・安全な子どもたちが住みやすい町づくりに努めました。貴重な財産となる地域資源を活用しより良い児童館運営に努めました。</p> <p>○児童健全育成事業 地域先生を招いた「ネイチャークラフト」「絵はがき講座」「体操教室」「折り紙の会」「畑隊」「お茶クラブ」や食のイベント「味噌作り教室」「はらぺこあらまち」等で多種多様な経験・体験を通して発見や学びの場と楽しめる場となるように努めました。</p> <p>○子育て家庭支援事業 幼児クラブ「あらまっちょ」や「お話パーク」の季節に沿ったイベント開催や定期的に講師を招いた「バランスボール」「ママリフレッシュヨガ」や「プレパパ・ママ」「リミック びよんびよん教室」等多様なイベントを実施し子どもの好奇心や向上心を高め親子で楽しめる工夫の中から親子交流や子育て支援室の環境づくりに取り組みました。</p> <p>○地域交流支援事業 継続事業として30団体・機関と連携して「荒町子まもり防犯プロジェクト」を開催しました。子どもたちが住みやすい町は誰もが住みやすい町を合言葉に子どもたち自身もこの町を守る自覚が出てきた活動となっています。「打ち水」「七夕飾り」の地域のお祭りイベント参加や地域先生として5回目の「回文団扇授業」を小学校で開催しました。名物になった回文団扇の観光イベントでは、児童館作成の紙芝居と一緒に荒町の歴史・文化を伝承し郷土愛を育む取り組みを行いました。</p> <p>○放課後児童健全育成事業 「英語であそぼう」「スノードーム作り」「大学祭へいこう」で近郊の大学や専門学校の学生達と子どもたちが身近に関わる機会を設けました。また、集団遊び、毎日の外遊び等で心身の健康と異年齢交流に取り組みました。「図書館へ行ってみよう」やダンスチーム結成やエアギター演奏等子どもたちのしたい事を実現化し様々な所で発表を行い自己実現やコミュニケーション構築に努めました。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>児童健全育成事業においては、継続して取り組んでいる「田んぼの学校」や、畑を園庭に移して「畑隊」を定期的に開催している。自然に触れながら作物を育てたり収穫する経験を通して、子ども達の好奇心を刺激して豊かな感性を育てている。また、地域の方々の指導を受け「みそ作り」「お茶クラブ」「ネイチャークラフト」等の豊富な体験プログラムを提供しており、地域の方々と交流を深め、子ども達が密接に地域と関わりながら育つ環境作りに努めている。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、幼児クラブで七夕や節分などの季節の行事やハンバーガー作り、制作活動など様々な趣向を凝らした活動を提供し、参加者から好評を得ている。またママヨガやバランスボールを定期的実施したり、産前産後の父母を対象にした「リフレッシュプレー作り」や「プレパパ・ママ」を開催するなど、産前からの子育て家庭支援に積極的に取り組んでいる。</p> <p>地域交流推進事業においては、商店街、小学校、警察など30程度の団体と共催して「荒町子まもり防犯プロジェクト」や「防犯ハロウィン」を開催して防犯教室や防犯訓練に取り組み、子ども達や地域の大人の防犯意識を高めている。また、商店街の七夕飾り作りや「わが街マルシェ」に参加するなど、地域と連携した協力体制のもと充実した事業を展開しており、地域交流の拠点として積極的に取り組んでいる。</p> <p>放課後児童健全育成においては、職員が子どもに寄り添い、子どもが安心して過ごせる生活の場となるよう一人一人に合わせた生活や遊びの内容を組み立てている。また、遊びや行事に取り組む際に「子ども会議」を開催して、子ども達が自主的な意見を反映させる機会を設け、子ども達一人一人が主体的に参加できるよう工夫している。屋外遊びを多く取り入れて体力増進につなげたり、異年齢による集団遊びや行事を通して社会性や主体性を育てている。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課